

In an Age of Art Market Turbulence From Modern Art to Kiefer and Beyond

アートマーケットが揺れる時代に モダンアートからキーファーそして今日まで

アンティオキアのマルガリータ / Margarethe von Antiochia 2024, 200×140×190cm
©Anselm Kiefer. Photo: Nina Slavcheva Private Collection, Europe



2026年11月14日[土] 10:00-16:30 開場は9:30

獨協大学 W-103教室／オンライン配信 併用

東武スカイツリーライン「獨協大学前(草加松原)」西口より徒歩5分

参加 無料 定員 先着300名 オンライン配信 QRコードより要事前申込、11月6日〆切



お問い合わせ 獨協大学外国語学部 ドイツ語学科共同研究室

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1、Tel:048-946-1924 共催:獨協大学ドイツ語学科、ドイツ語圏美術史研究会

現代において、アートの価値を生み出しているものは何なののでしょうか。アンゼルス・キーファー (1945年-) は、これまで60年近くにわたり「ドイツの負の歴史」や「記憶」を主題にしているドイツ出身の現代美術家です。2025年、キーファーはイギリス・オクスフォードのアシュモレアン美術館を皮切りに、アムステルダムゴッホ美術館と市立美術館、京都の世界遺産・二条城、そしてアメリカ・セントルイス美術館において大型の展示を行いました。いずれも、世界的なコレクターや、ガゴシアン、ホワイトキューブといったメガギャラリーが、世界有数の美術館や世界遺産を会場として企画した展示です。

本シンポジウムでは、キーファーを出発点としながら、日独の美術史家、アーティスト、学芸員、そしてギャラリストという異なる立場から、アートマーケット、コレクター、そしてキュレーターと美術館がアート作品の価値をどのように形づくっているのかを問い直します。

タイムスケジュール Programm 逐次通訳あり

- 10:00 青山 愛香
開会挨拶・趣旨説明
- 10:30 講演1 アンヌ＝マリー＝ボネ
20世紀から現在に至るまでの変化する
アートシーンを背景としたA.キーファーにおける
特有の収集/コレクター文化について
- 13:00 講演2 レナ・フリッツ
アンゼルス・キーファー: 初期作品
アシュモレアン美術館における個人コレクションのキュレーション
- 14:05 講演3 菅 亮平
戦争の記憶、その表象・所有・継承をめぐる
キーファー、丸木位里・丸木俊、私の実践から
- 14:40 講演4 新藤 淳
歴史も未来も喪失ゆく絵画
アート・マーケットとSNSの力学を内面化しすぎた
芸術への懐疑
- 15:20 ラウンドテーブル
コメンテーター: 小山 登美夫
司会: 青山 愛香

登壇者紹介 Referent*innen

青山 愛香 Aika Aoyama

獨協大学 教授

専門はアルブレヒト・デューラー / 北方ルネサンス美術。主な業績に「遍歴時代のデューラー素描《玉座に座る老人と跪く青年》について『ゲルマン民族博物館年鑑』(2005年)、『遍歴時代のデューラー作品』(中央公論美術出版2009年)、「アンゼルス・キーファーの二条城<SOLARIS>展を巡って―展示空間における記憶のトポグラフィ―」(『ドイツ学研究』86号、2025年)他多数。

アンヌ・マリー＝ボネ Anne-Marie Bonnet

ボン大学 名誉教授

美術史家。教育・研究の関心領域は近代の彫刻/塑像、近代および「アヴァンギャルド」の思想史、美術史学の思想的背景、ミュージオロジー (博物館学)、芸術というシステム、脱植民地化など。教授資格論文は「デューラーおよびドイツ・ルネサンスにおける裸体表現。キュレーター、専門アドバイザー、批評家としても活動。

レナ・フリッツ Lena Fritsch

キュレーター

2013年から2017年までロンドンのテート・モダンでアシスタントキュレーターを務め、アジア太平洋地域の美術を専門とする。2017年から2025年まではオックスフォードのアシュモレアン美術館で近現代美術部門のプログラムを統括し、オックスフォード大学でも教鞭をとる。2025年には、イギリスで初となるアンゼルス・キーファーの初期作品展をキュレーションした。

菅 亮平 Ryohei Kan

東京芸術大学大学院 准教授

多様な表現メディアを横断しながら、「空虚 (ヴォイド)」を主題に作品制作を行う。近年は広島を起点に、被爆再現人形や松根油など、第二次世界大戦の記憶の継承をめぐるアートプロジェクトに取り組む。近年の主な個展に、「The Long Wait」(町立久万美術館)、「Based on a True Story」(原爆の図丸木美術館) などがある。2025年に作品集『Around the Void』(水声社)を刊行。

新藤 淳 Atsushi Shinfuji

国立西洋美術館 主任研究員

共著書に『版画の写像学』(ありな書房) など。主な展覧会企画に「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか? ―国立西洋美術館65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ」(2024)、2026年10月開催予定の「テート美術館 ターナー展―崇高の絵画、現代芸術との対話」(国立西洋美術館)。

小山 登美夫 Tomio Koyama

小山登美夫ギャラリー

小山登美夫ギャラリー代表取締役社長。現在、日本現代美術商協会顧問。西村画廊、白石コンテンポラリーアートを経て、1996年に江東区佐賀町にギャラリーをオープン、村上隆、奈良美智など多くの日本作家を積極的に取り上げて注目を浴びる。現在は六本木、京橋、天王洲のスペースを持つ。